

人口動態統計等から見る宮古圏域の状況

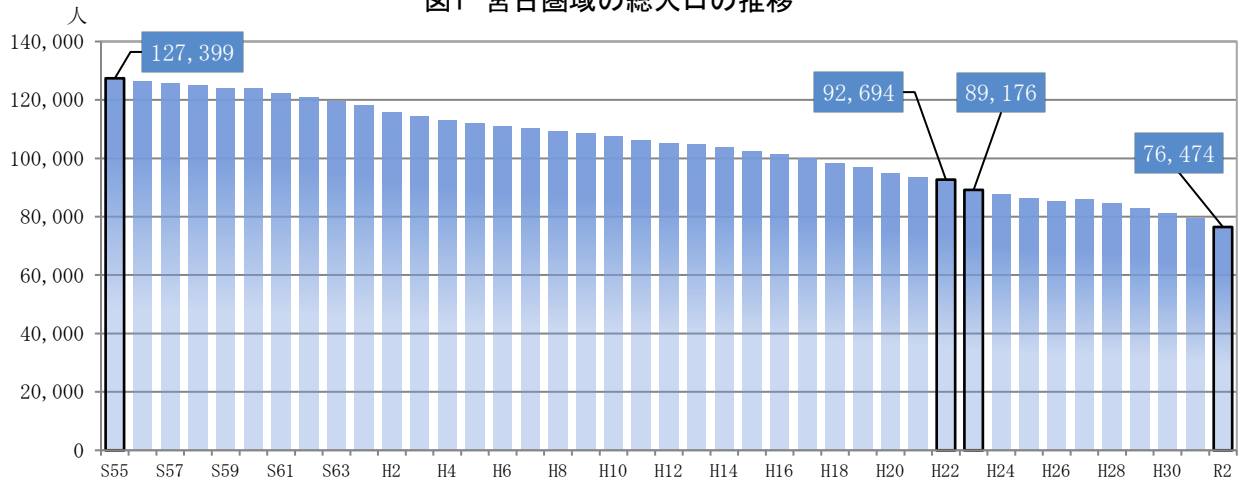
※このホームページで用いているデータは、人口動態統計等から得られた数値及びその数値を基に必要な計算を行い算出しています。従って、計算を行うための基となるデータが得られない等の理由で提供データの開始年次に差が生じています。

I 人口の推移

1 総人口の推移

宮古圏域の人口は、昭和55年の127,399人から、令和2年は76,474人と約40年で50,925人減少しています(図1)。平成23年は東日本大震災津波による影響が大きく、平成22年の92,694人から平成23年は89,176人と3,518人の減となっています(図1)。

図1 宮古圏域の総人口の推移

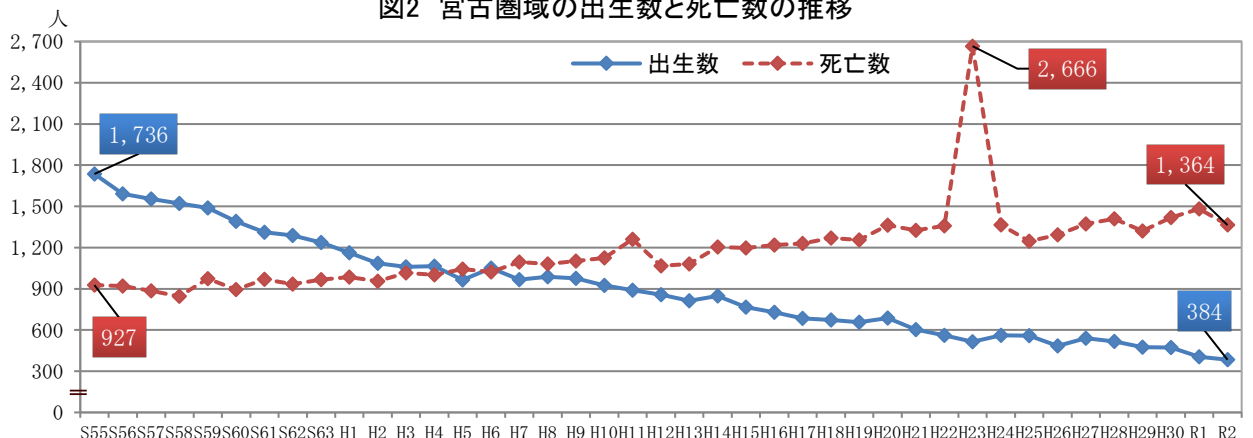


2 人口構成の推移

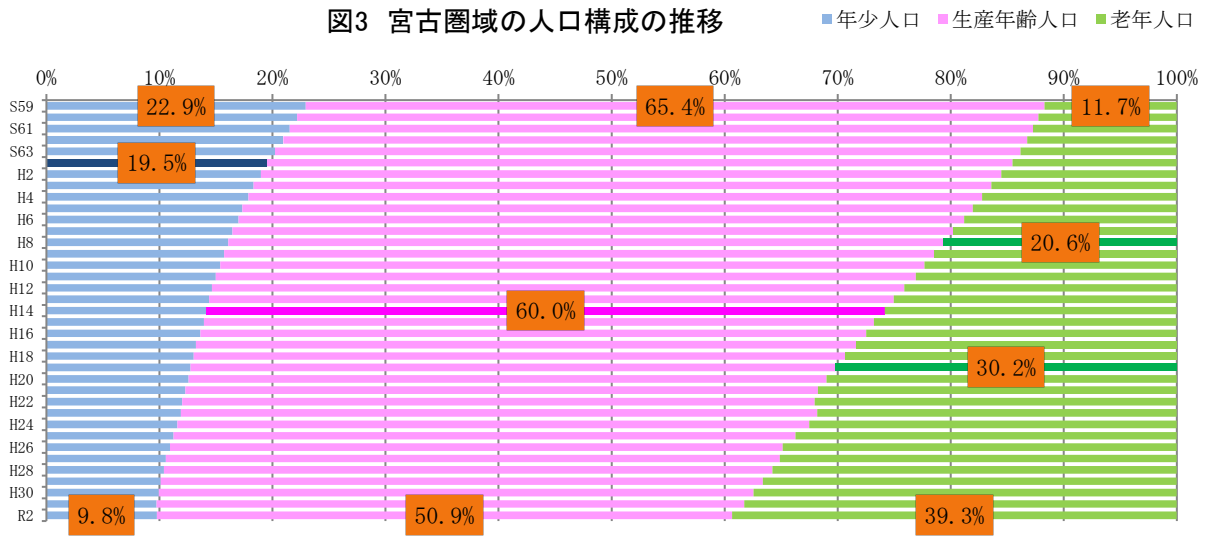
宮古圏域の1年当たりの出生数は、昭和55年には1,736人でしたが、令和2年は384人と1,352人減少しました。一方、死亡数は昭和55年の927人から年々増加し、令和2年は1,364人となっています。平成23年は東日本大震災津波による不慮の事故死亡数が多く、2,666人となっています(図2)。

出生数から死亡数を差し引いた自然増加数は、平成5年に初めてマイナスに転じ、平成7年以降はその差は年々広がっています。令和2年の自然増加数は980人減でした。

図2 宮古圏域の出生数と死亡数の推移



宮古圏域の総人口に占める各区分の割合を昭和59年から経年的に見たものが「図3」です。
 年少人口は平成元年に19.5%となり、令和2年は9.8%まで低下しています。
 老年人口は平成8年に20.6%、平成19年に30.2%となり、令和2年は39.3%と3人に1人以上が65歳以上という状況です。

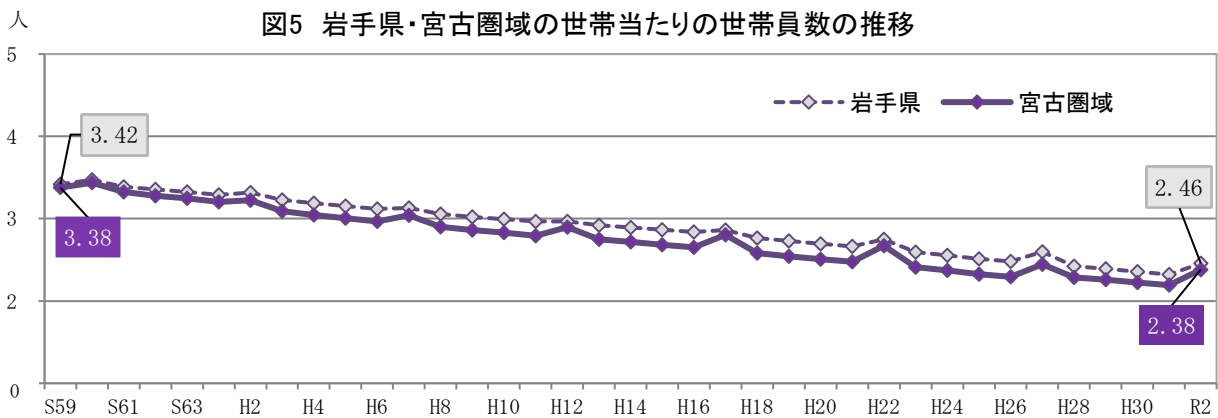
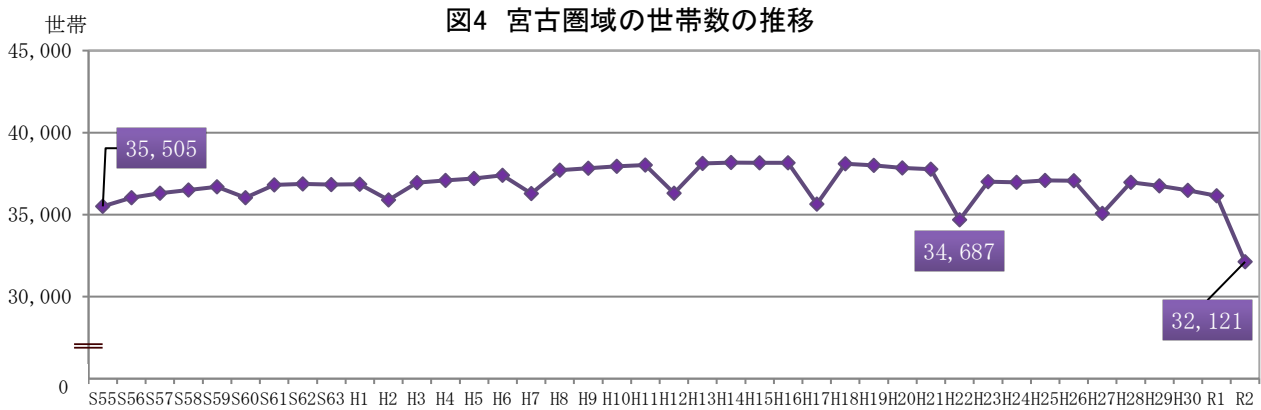


3 世帯数及び世帯当たりの世帯員数の推移

宮古圏域の世帯数は、昭和55年の35,505世帯から平成11年まで微増傾向にありましたが、それ以降横ばいとなりました。平成19年から減少傾向となり、令和2年には32,121世帯でした(図4)。

総人口を世帯数で割った世帯当たりの世帯員数は、昭和59年の3.38人から令和2年は2.38人と減少傾向にあります(図5)。

なお、世帯数は、国勢調査年は国勢調査による数値、それ以外は住民基本台帳による数値となっています。

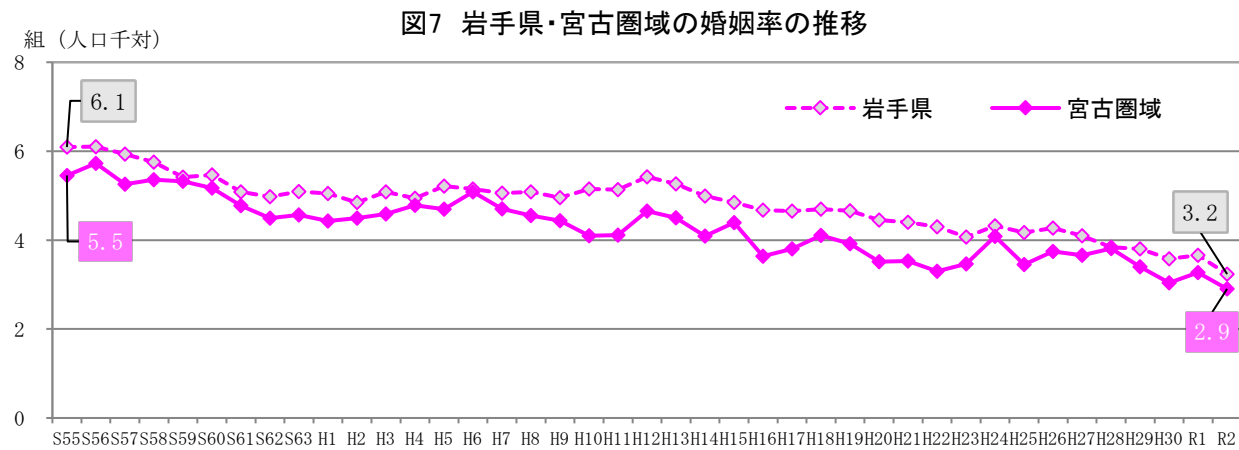
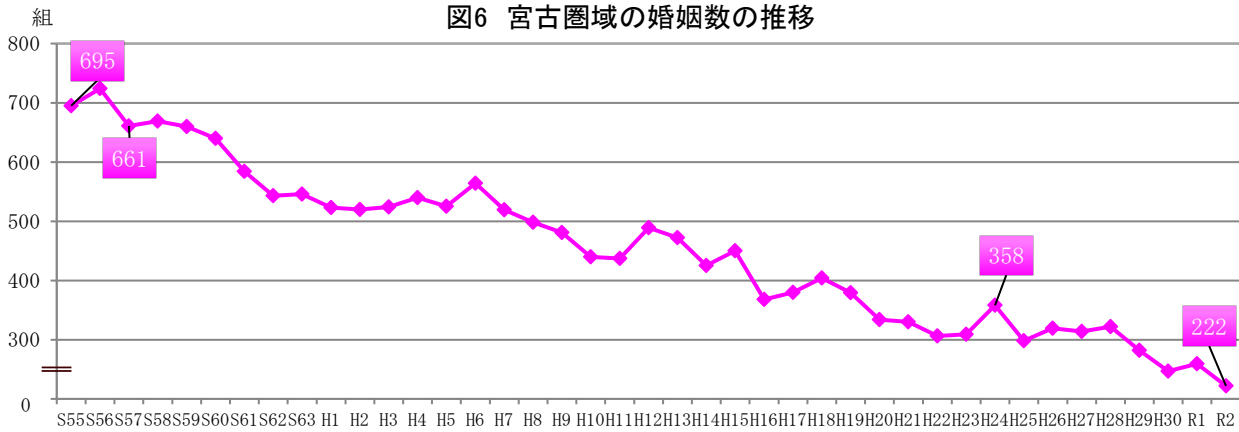


II 婚姻及び離婚の推移

1 婚姻数及び婚姻率の推移

出生は婚姻等との関連が大きいところですが、宮古圏域の婚姻数は昭和55年(695組)から平成22年にかけて減少傾向にありました。平成24年は358組と増加しましたが、平成22年から概ね横ばいに推移しています。令和2年は222組でした(図6)。

人口千人当たりの婚姻率は、昭和55年から平成22年にかけて低下傾向となり、平成22年以降は横ばいで推移しています(平成24年を除く)。また、岩手県全体より低い婚姻率となっています(図7)。



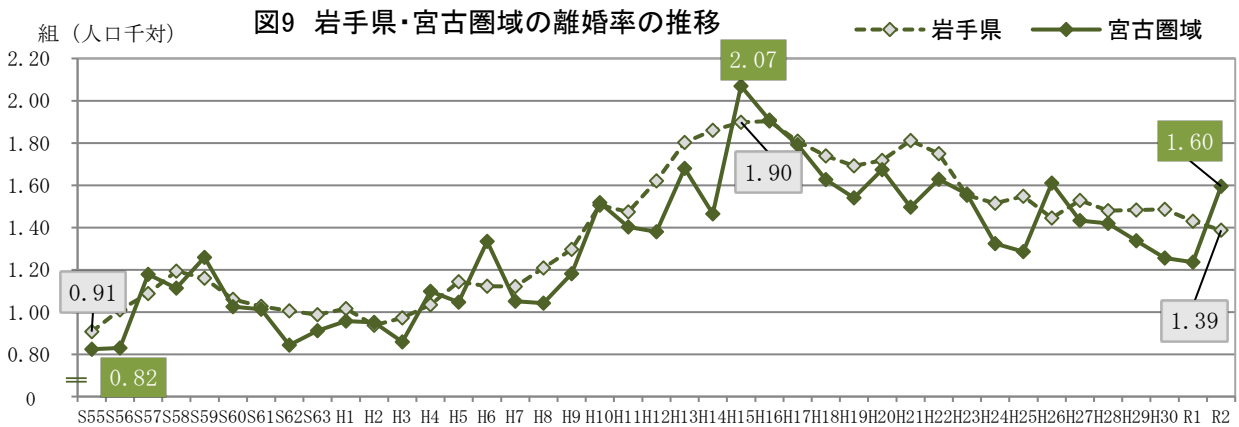
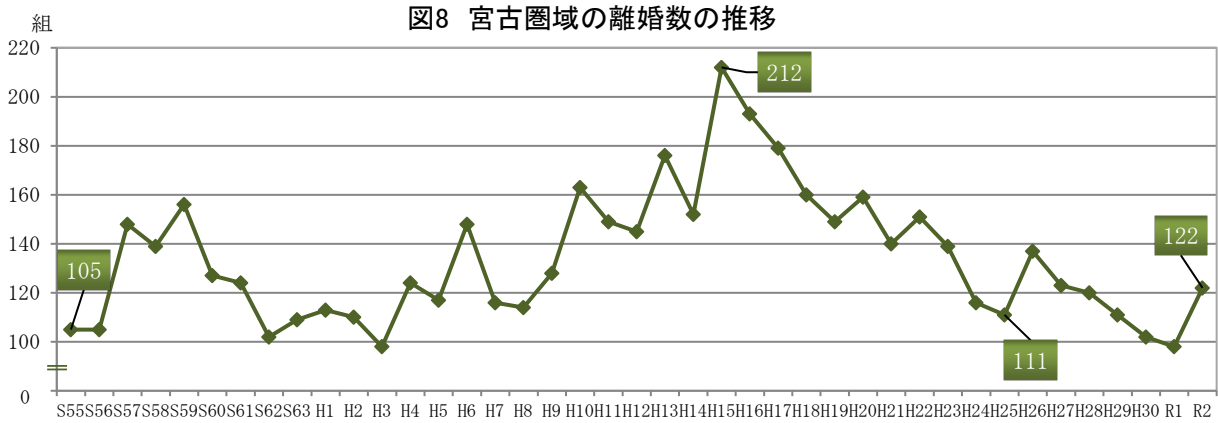
2 婚姻率の圏域別順位 (令和2年高率順)

	岩手県	1位	2位	3位		5位	6位		8位	9位
圏域名		盛岡	中部	胆江	釜石	宮古	両磐	気仙	久慈	二戸
婚姻率	3.2	3.7	3.4	3.1	3.1	2.9	2.8	2.8	2.3	1.9

3 離婚数及び離婚率の推移

宮古圏域の離婚数は、昭和55年の105組から増減を繰り返しながら増加傾向となり、平成15年が最も多い離婚数となりました。翌年から減少傾向となり、平成25年は111組まで減少しました。平成26年は前年より26組増加しましたが、以降減少が続き、令和2年は122組と高く推移しています(図8)。

人口千人当たりの離婚率は、概ね岩手県全体と同じ傾向で推移していますが、令和2年は1.60と岩手県全体を上回りました(図9)。



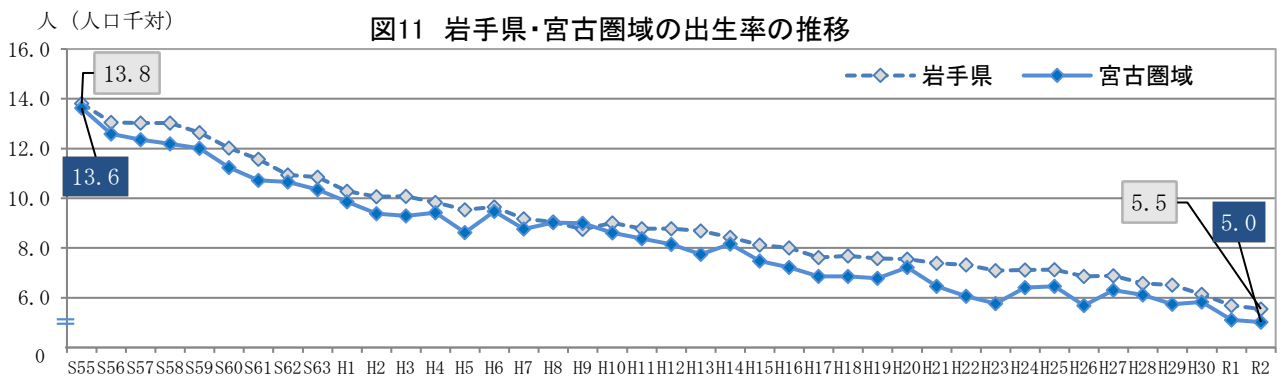
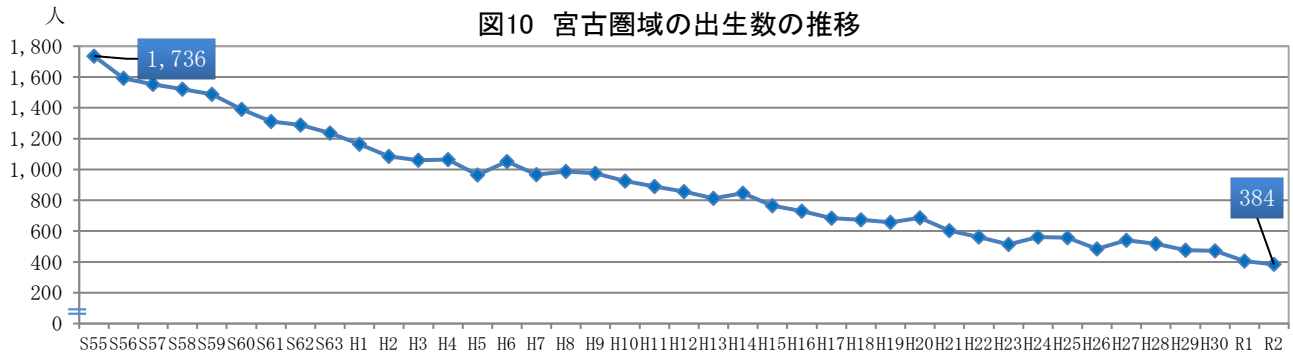
4 離婚率の圏域別順位 (令和2年低率順)

	岩手県	1位	2位	3位	4位	5位	6位	7位	8位	9位
圏域名		釜石	久慈	二戸	気仙	両磐	盛岡	中部	宮古	胆江
離婚率	1.39	1.07	1.12	1.20	1.24	1.33	1.39	1.42	1.60	1.61

Ⅲ 出生、周産期死亡、死産、乳児死亡等の推移

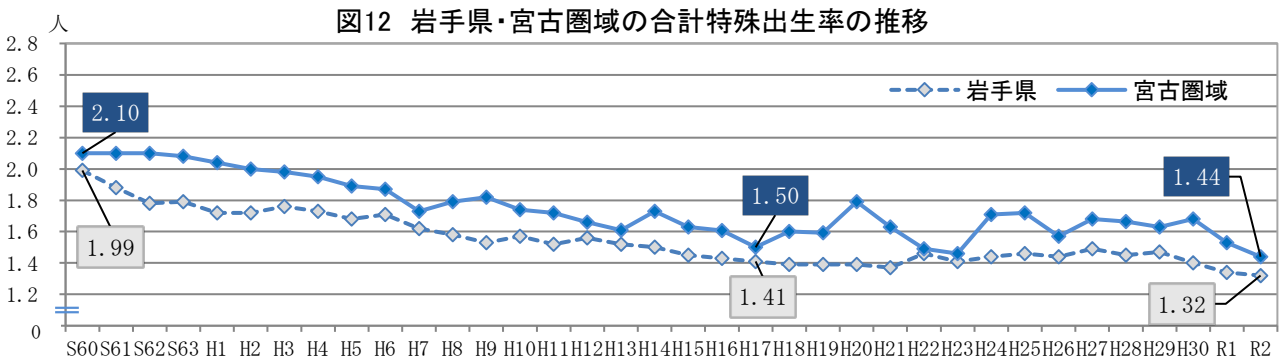
1 出生数及び出生率の推移

宮古圏域の出生数は、昭和55年の1,736人から減少傾向にあり、令和2年は384人と1,352人減少しています(図10)。人口千人当たりの出生率も、昭和55年の13.6から令和2年は5.0と低下しています。岩手県全体と比較すると、宮古圏域は岩手県全体より低く推移しています(図11)。



2 合計特殊出生率の推移

一人の女性が一生に産む子どもの数を表す指標の合計特殊出生率について、宮古圏域は昭和60年の2.10から平成17年の1.50まで低下傾向にありましたが、平成18年以降は上昇と低下を繰り返し、令和2年は1.44でした。いずれの年次も宮古圏域は岩手県全体より高く推移しています(図12参照)。



3 合計特殊出生率の圏域別順位 (令和2年高率順)

	岩手県	1位	3位	4位	5位	6位	8位	9位		
圏域名		胆江	宮古	気仙	久慈	両磐	盛岡	中部	二戸	釜石
合計特殊出生率	1.32	1.44	1.44	1.36	1.35	1.34	1.30	1.30	1.19	1.17

4 周産期死亡数・率の推移

妊娠満22週以降の死産（以下、「後期死産」と言います。）及び出生後満7日未満の死亡（以下、「早期新生児死亡」と言います。）を周産期死亡と言います。周産期死亡率は、出産（出生数と妊娠満22週以後の死産数の合計）千対の率です。

宮古圏域の周産期死亡数は、昭和57年から平成6年にかけて減少しましたが、平成7年から平成15年は6人以上の年次が多く、平成15年以降は4人以下で推移しています（平成20年を除く）。令和2年は3人でした。内訳を見ると後期死産が多く、早期新生児死亡数は、平成11年以降0人となる年次が多くなっています（図13）。

周産期死亡率は、昭和57年の14.1から大きく上昇と低下を繰り返し、平成7年は13.3と昭和57年以降最も高くなり、令和2年は7.8となっており、岩手県全体の3.1より高い死亡率でした（図14、図15）。

図13 宮古圏域の周産期死亡数の推移

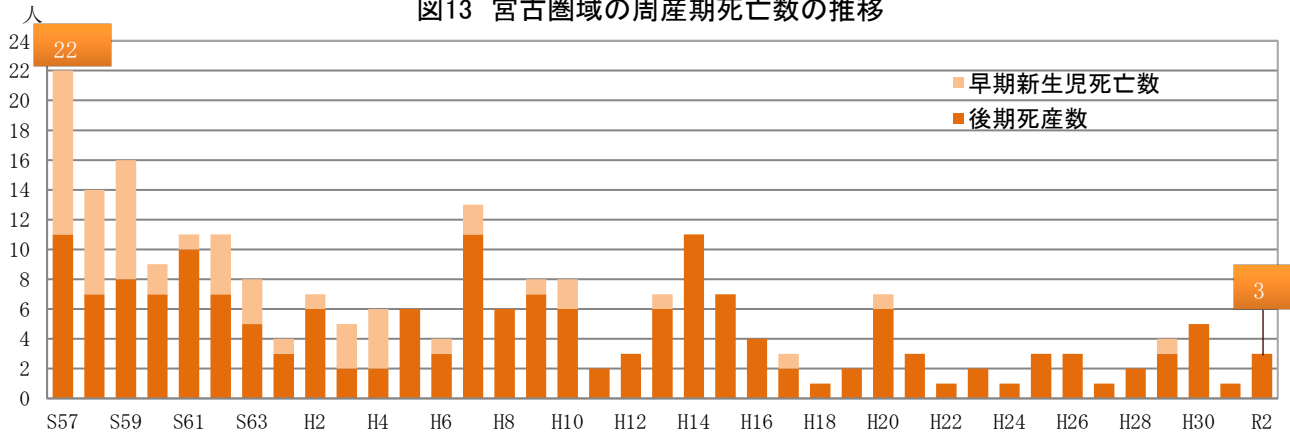


図14 宮古圏域の周産期死亡率の推移

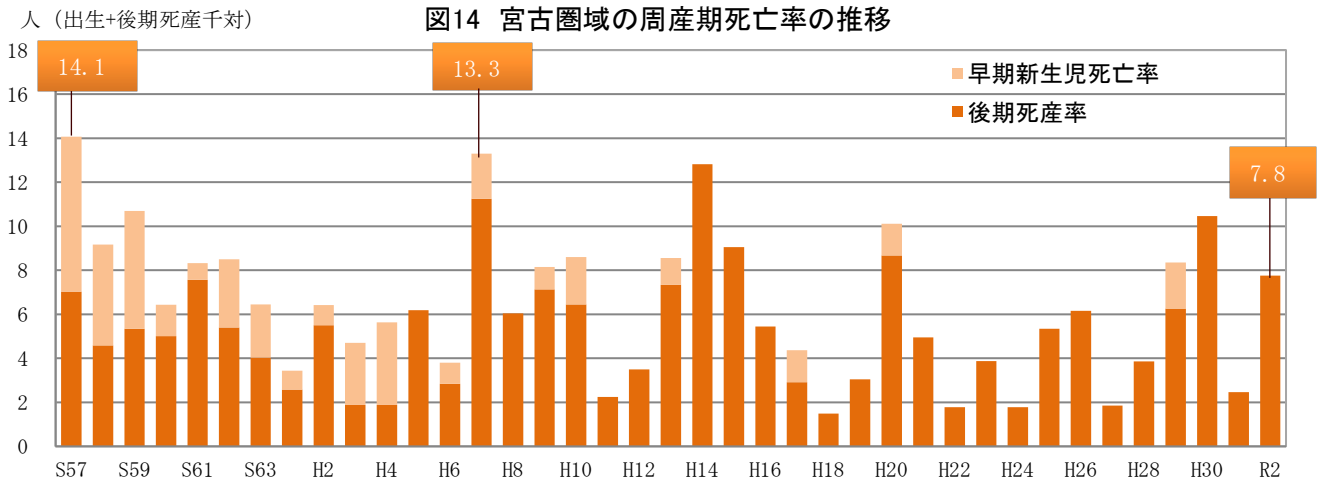
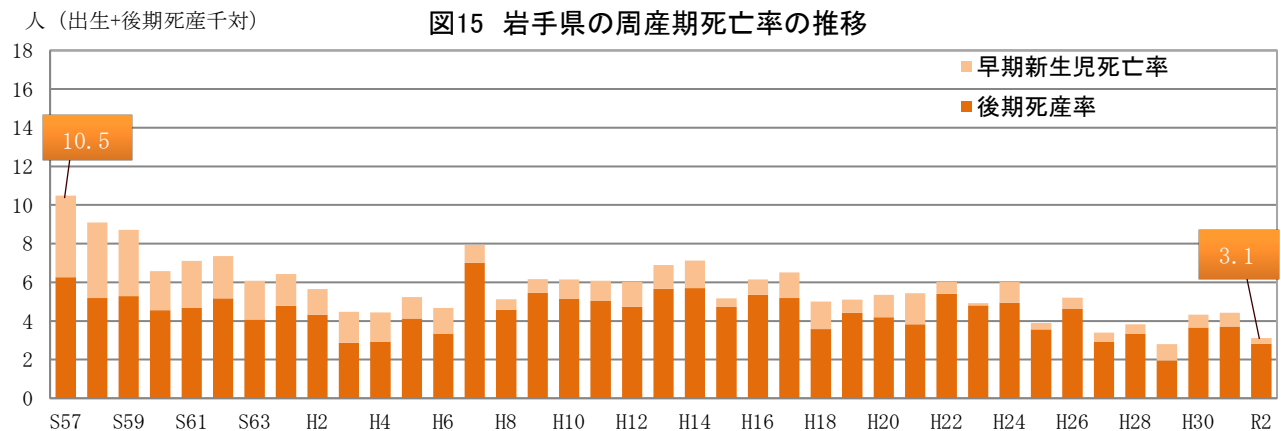


図15 岩手県の周産期死亡率の推移



5 死産数・率の推移

宮古圏域の死産数は、昭和55年の71人から減少傾向にあり、令和2年は12人でした。内訳は昭和55年から平成2年まで自然死産が多く、平成3年以降は人工死産と自然死産が同数に近いか、または人工死産の方が多かったのですが、近年は自然死産が多い年次が増えています(図16)。

出生千人当たりの死産率は、昭和55年から平成18年まで30.0を超えて推移していましたが(平成11年、15年を除く)、平成19年以降は低下傾向となり、平成23年以降は岩手県全体より低く推移している年次が多かったのですが、令和2年は30.3と県全体を上回っています(図17、図18)。

図16 宮古圏域の死産数の推移

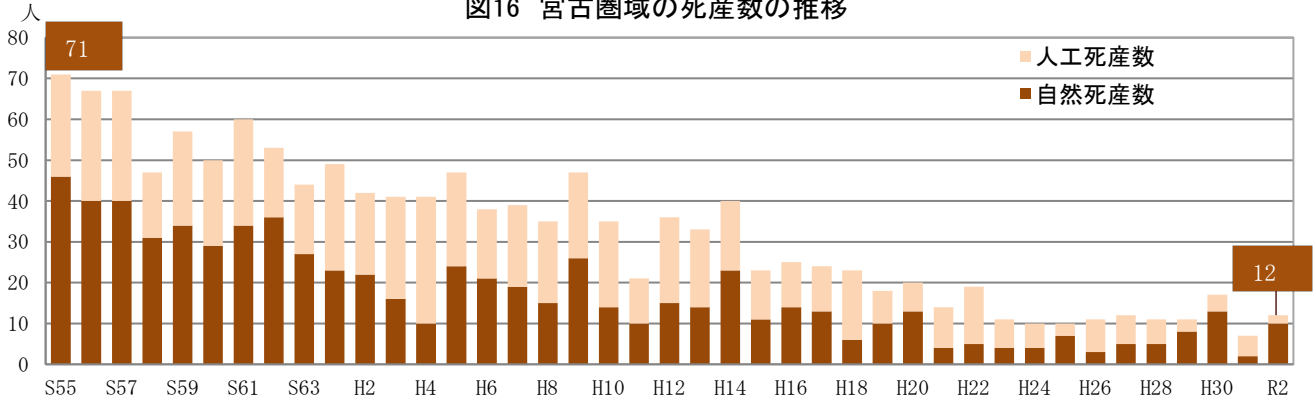


図17 宮古圏域の死産率の推移

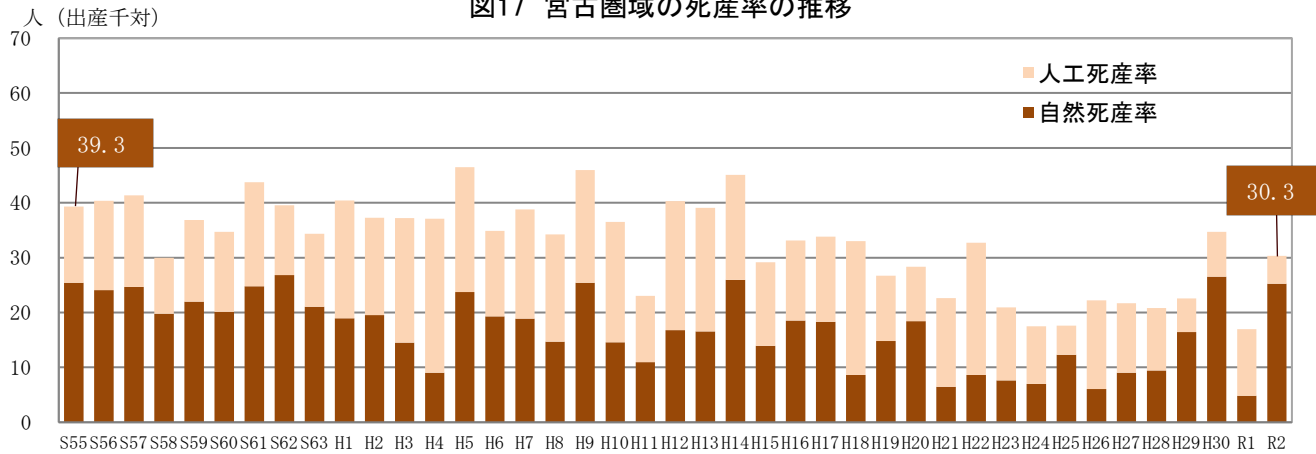
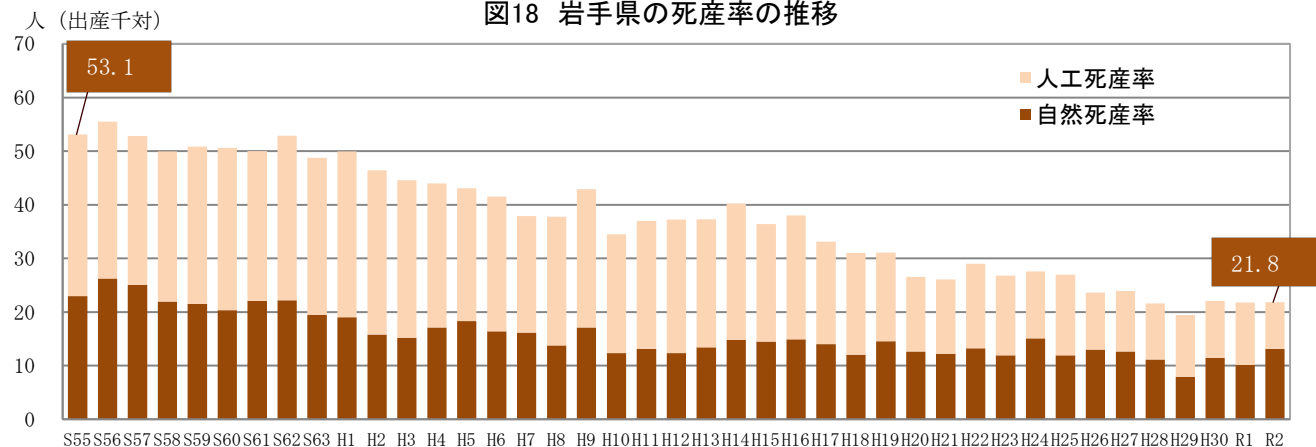


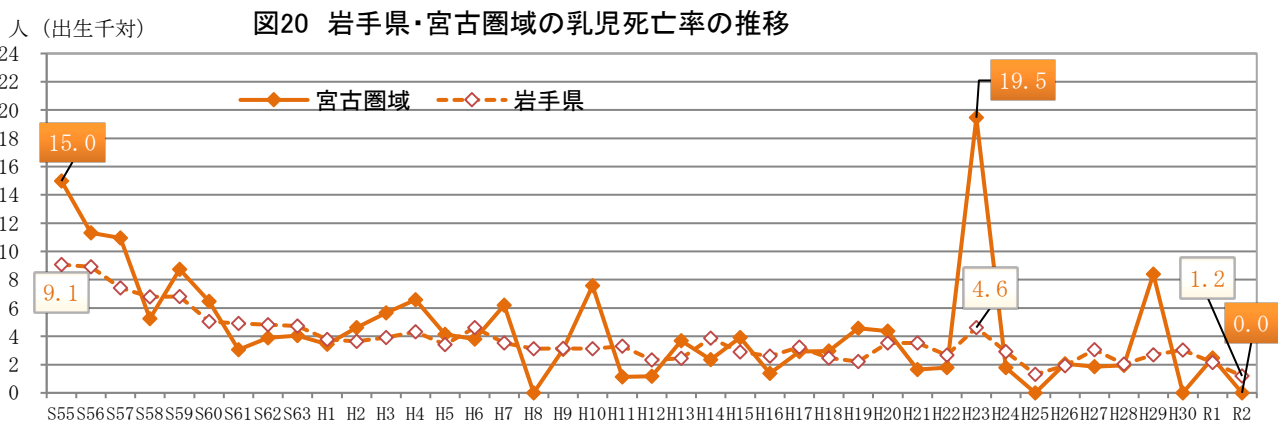
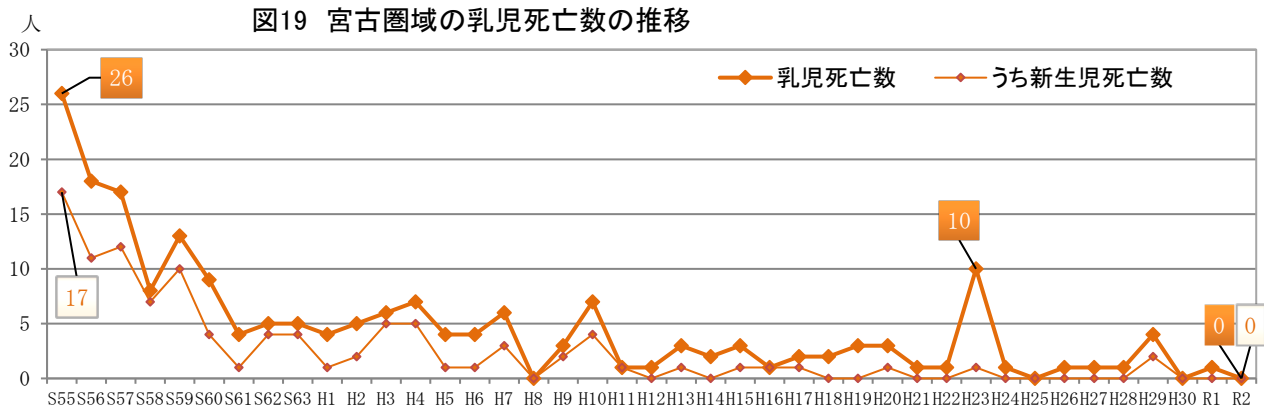
図18 岩手県の死産率の推移



6 乳児死亡数・率の推移

宮古圏域の乳児死亡数は、昭和55年の26人から減少傾向にあり、平成11年からは4人以下で推移しています。なお、平成23年は10人ですが、東日本大震災津波の影響を考慮する必要があります。令和2年は0人でした(図19)。

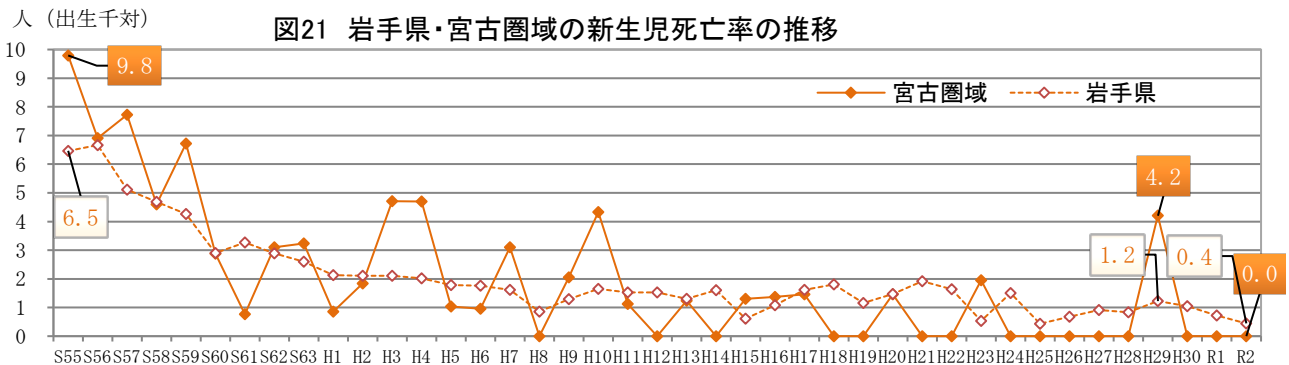
乳児死亡数のうち、生後4週間未満(新生児)の死亡は昭和55年の17人から平成11年以降は0~2人で推移しています(図19)。出生千人あたりの乳児死亡率は、昭和55年の15.0から増減を繰り返しながら低下傾向にあり、平成21年からは岩手県全体より低い状況となっています(平成23年、26年、29年、令和元年を除く)。令和2年は0.0でした(図20)。



7 新生児死亡率の推移

宮古圏域の出生千人あたりの新生児死亡率は、昭和55年の9.8から大きく増減を繰り返し、昭和59年、平成3、4年、平成10年に山を形成し、平成11年以降2.0以下で推移していましたが、平成29年は4.2に上昇しています。令和2年は0.0でした。

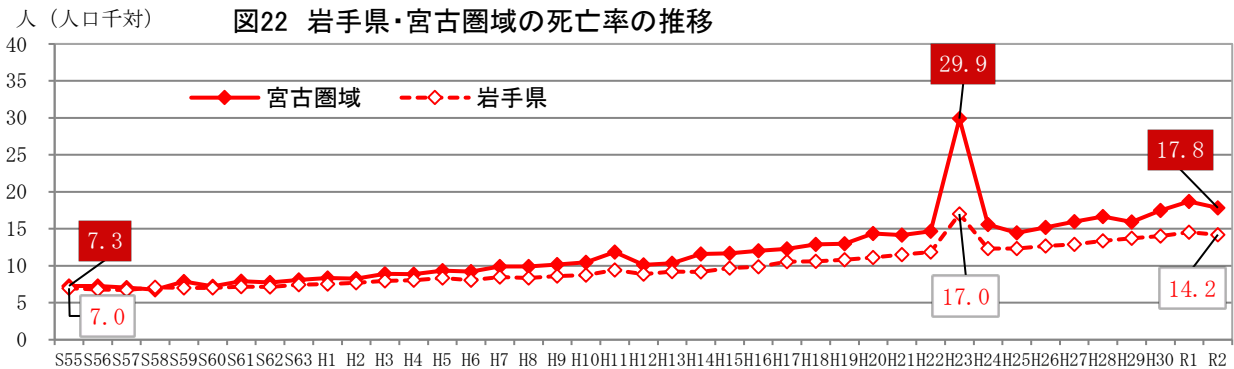
なお、平成23年は東日本大震災津波の影響を考慮する必要があります(図21)。



IV 死亡の推移

1 死亡率の推移

宮古圏域の人口千人当たりの死亡率は昭和61年から岩手県全体より高く推移しており、近年はその差が少しずつ広がっています。令和2年は17.8でした。なお、平成23年は東日本大震災津波による不慮の事故の死亡が多いため、宮古圏域では29.9、岩手県全体では17.0となっています(図22)。



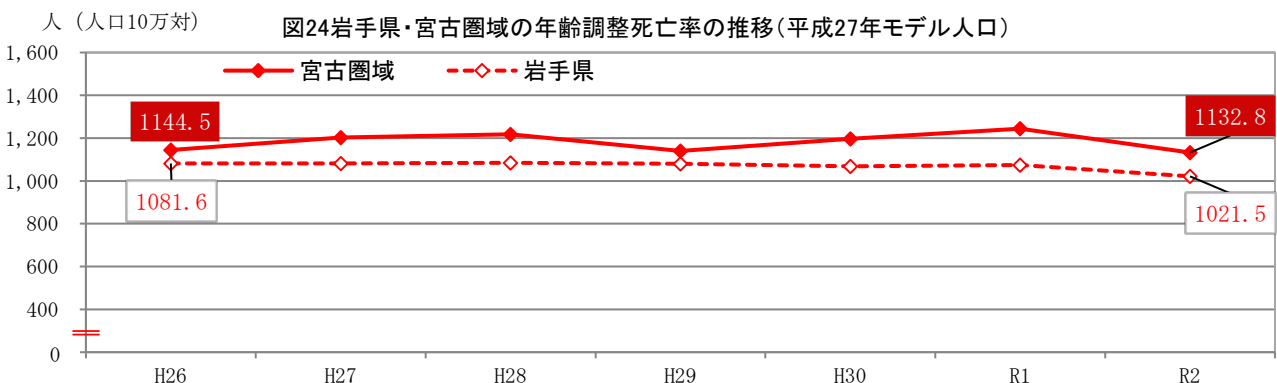
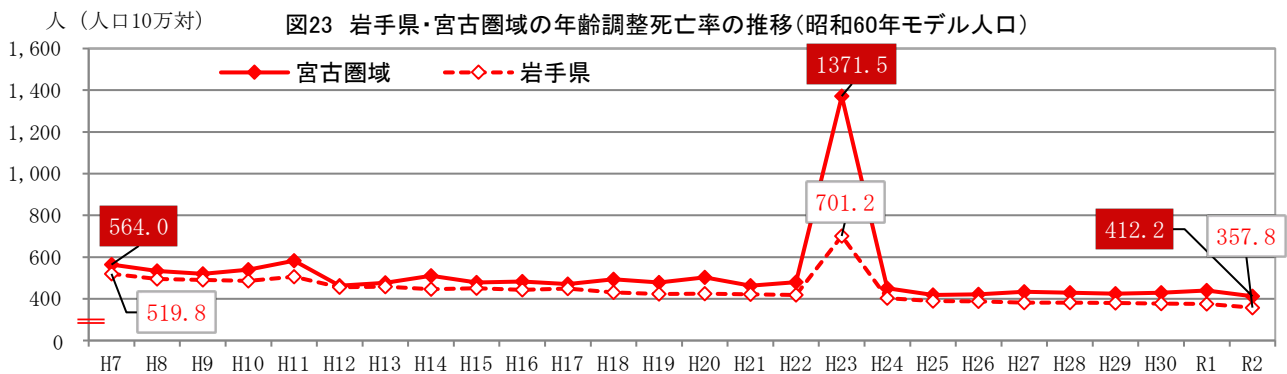
2 年齢調整死亡率の推移

(図23)の人口10万人当たりの年齢調整死亡率 \ast で見ると、宮古圏域は平成7年564.0から令和2年は412.2と低下傾向にあります。平成23年は東日本大震災津波による不慮の事故死亡が多く、1371.5とはるかに高い死亡となっています。なお、(図23)(図24)を見ると、宮古圏域は全ての年次で岩手県全体より高く推移しています。

\ast 年齢調整死亡率:年齢構成の異なる地域間で死亡の状況を比較できるように年齢構成を調整した死亡率が年齢調整死亡率(人口10万人当たり)です。年齢調整死亡率は、従来昭和60年モデル人口(国勢調査人口を基に補正した人口)を使用した数値を掲載していましたが、令和4年2月25日に厚生労働省が「年齢調整死亡率の基準人口について」を改訂し、新たに平成27年モデル人口(国勢調査人口を基に補正した人口)を使用することとなりました。この基準人口改訂は、近年の高齢化による人口構成の変化を反映したものとなっています。

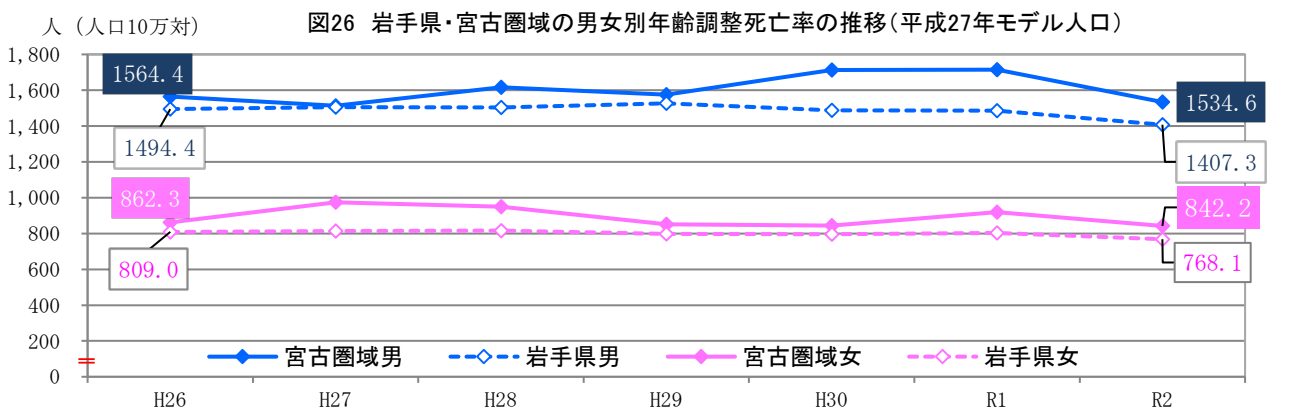
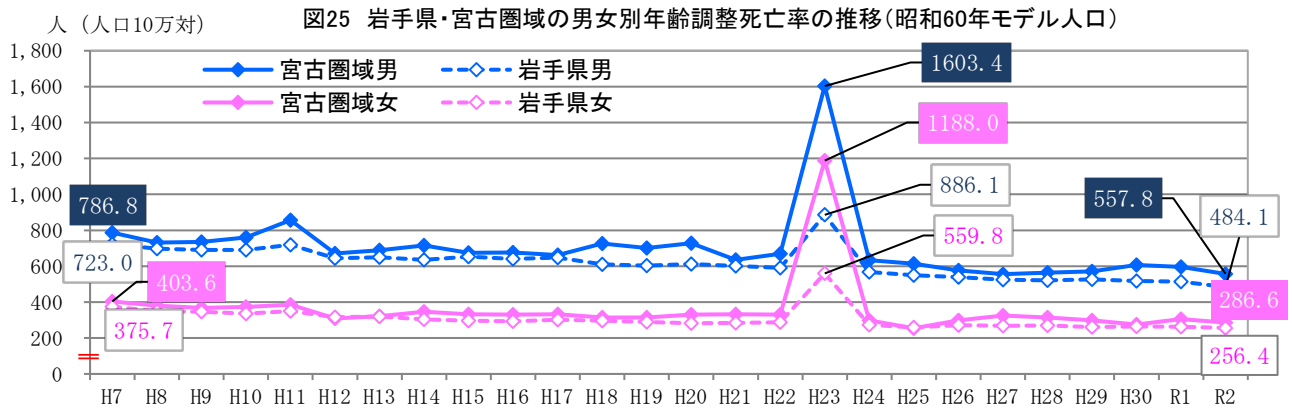
なお、県や市町村の健康増進計画等で使用している年齢調整死亡率は、昭和60年モデル人口を使用した数値を用いており、継続した経年比較や傾向把握が必要であることから、従来に引き続き昭和60年モデル人口を使用した数値を掲載しています。また、新たな県の健康増進計画との比較を考慮し、現行計画の期間(平成26年～令和5年)分について、平成27年モデル人口を使用した数値も掲載しています。

岩手県の年齢調整死亡率は不詳人口を按分して算出、宮古圏域は不詳人口を除いて算出しています。



3 男女別年齢調整死亡率の推移

年齢調整死亡率は、男女で大きく異なることから、男女別で(図25)(図26)に示します。
 (図25)を見ると、宮古圏域の男性は、平成7年の786.8から令和2年は557.8にまで低下しています。女性は、平成7年の403.6から令和2年は286.6にまで低下して推移していることがわかります。
 なお、(図25)(図26)を見ると、宮古圏域は岩手県全体より高く推移しています。男性は女性の約1.8倍前後の値で推移し、男性の死亡率が高い状況です。



4 年齢調整死亡率の死因別順位

死因別の年齢調整死亡率について、岩手県・宮古圏域の男女別にその値を求め、死因毎に値の高い順に5位までを下表に示しています。

区分(昭和60年モデル人口)			第1位	第2位	第3位	第4位	第5位	
令和2年	男性	岩手県	死因	悪性新生物	心疾患	脳血管疾患	自殺	不慮の事故
		年齢調整死亡率	153.9	67.7	51.0	25.1	21.1	
	宮古圏域	死因	悪性新生物	心疾患	脳血管疾患	不慮の事故	肺炎	
		年齢調整死亡率	164.1	92.4	42.0	34.6	29.4	
女性	岩手県	死因	悪性新生物	心疾患	脳血管疾患	老衰	自殺	
		年齢調整死亡率	92.2	33.2	25.7	17.3	11.3	
	宮古圏域	死因	悪性新生物	心疾患	老衰	脳血管疾患	肺炎	
		年齢調整死亡率	104.0	40.1	16.5	16.4	7.2	

区分(平成27年モデル人口)			第1位	第2位	第3位	第4位	第5位	
令和2年	男性	岩手県	死因	悪性新生物	心疾患	脳血管疾患	肺炎	老衰
		年齢調整死亡率	411.6	213.0	147.2	85.0	82.8	
	宮古圏域	死因	悪性新生物	心疾患	脳血管疾患	肺炎	老衰	
		年齢調整死亡率	403.7	280.3	120.4	114.4	81.0	
	女性	岩手県	死因	悪性新生物	心疾患	老衰	脳血管疾患	肺炎
			年齢調整死亡率	214.4	121.6	88.1	84.3	29.6
宮古圏域		死因	悪性新生物	心疾患	老衰	脳血管疾患	肺炎	
		年齢調整死亡率	244.3	157.4	87.9	65.8	29.6	

<参考>令和2年死因別死亡数順位

岩手県・宮古圏域の男女別に死因毎の死亡数の多い順から5位までを示しています。

岩手県と宮古圏域で比較すると、男性は第1位「悪性新生物」から第5位「老衰」まで同じ順位となっており、女性も第1位「悪性新生物」から第5位「肺炎」まで同じ順位となっています。

区分		第1位	第2位	第3位	第4位	第5位	
令和2年	男性	岩手県	死因 悪性新生物	心疾患	脳血管疾患	肺炎	老衰
		死亡数	2,562	1,254	889	487	428
	宮古圏域	死因 悪性新生物	心疾患	脳血管疾患	肺炎	老衰	
		死亡数	186	122	53	48	31
女性	岩手県	死因 悪性新生物	心疾患	老衰	脳血管疾患	肺炎	
		死亡数	2,019	1,477	1,312	987	381
	宮古圏域	死因 悪性新生物	心疾患	老衰	脳血管疾患	肺炎	
		死亡数	165	139	93	59	28

5 悪性新生物の岩手県・宮古圏域の男女別年齢調整死亡率の推移

「悪性新生物」について、岩手県全体・宮古圏域の男女別年齢調整死亡率の推移を(図27)(図28)に示します。

(図27)を見ると、宮古圏域では、男性は平成9年以降大きく上昇と低下を繰り返しながら低下傾向にあり、平成26年は153.1人と平成7年以降最も低い死亡率でした。岩手県全体より高い年次が多くありますが、平成26年、27年は岩手県全体より低い状況でした。令和2年は164.1と岩手県全体より高く推移しています。女性は、平成7年以降横ばいから緩やかな低下傾向で推移していましたが、平成26年、27年と上昇しました。また、岩手県全体に近い死亡率で推移していましたが、令和2年は104.0と岩手県全体よりも高くなっています。

(図28)を見ると、宮古圏域の男性は年ごとの変動はあるものの、概ね岩手県全体と同様の傾向を示しています。女性はほとんどの年次で岩手県全体より高く推移している年次が多く、令和2年も高く推移しています。

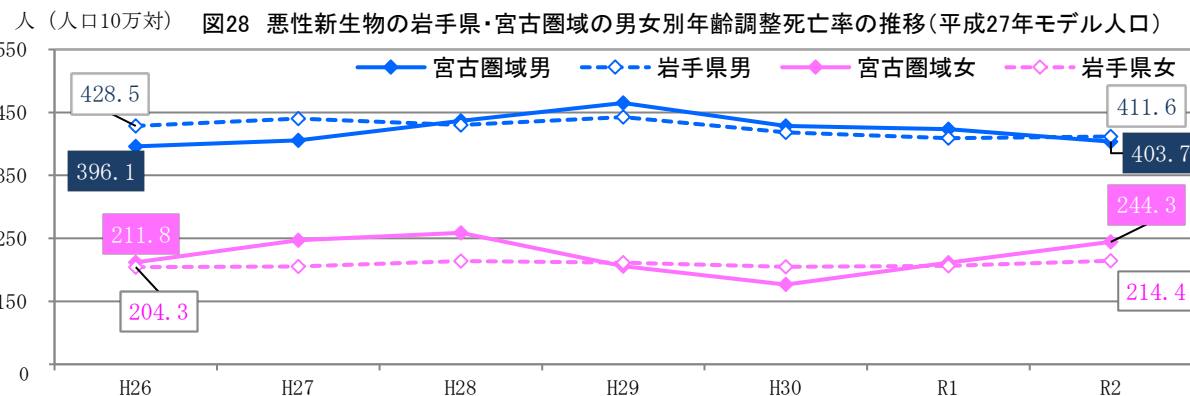
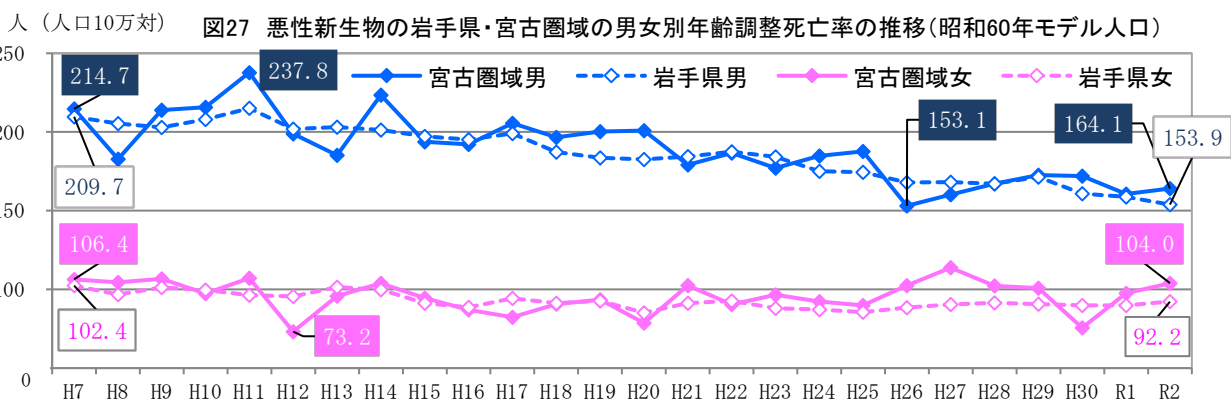


表1 悪性新生物の部位別年齢調整死亡率の順位

悪性新生物の部位別年齢調整死亡率について、令和2年の岩手県・宮古圏域の男女別にその値を求め、値の高い順から3位までを下表に示しています。

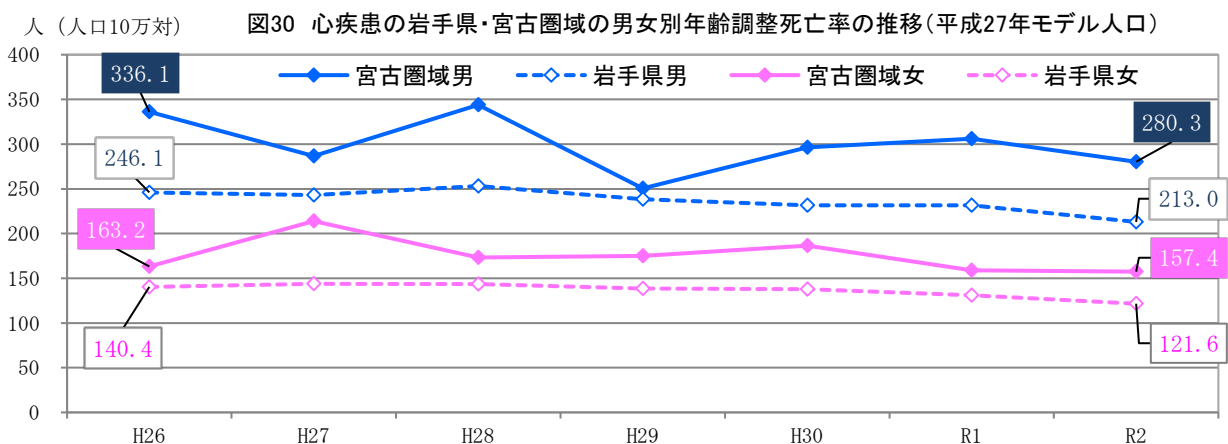
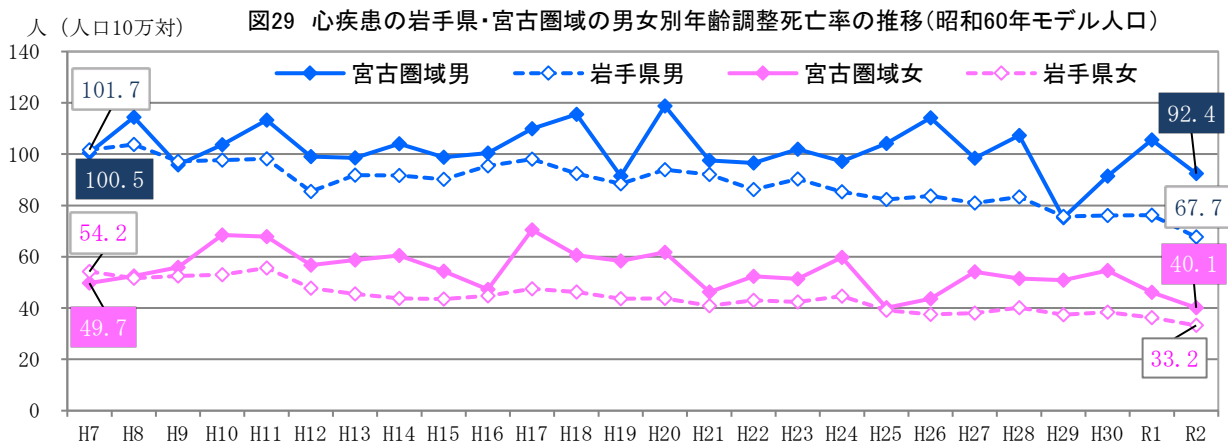
区分(昭和60年モデル人口)		第1位	第2位	第3位	
令和2年	男性	岩手県	死因 肺	大腸	胃
		年齢調整死亡率	35.2	26.0	20.6
	宮古圏域	死因 大腸	肺	胃	
		年齢調整死亡率	33.4	32.6	13.9
女性	岩手県	死因 大腸	乳	肺	
		年齢調整死亡率	14.5	13.4	9.4
	宮古圏域	死因 大腸	肺	乳	
		年齢調整死亡率	23.2	17.2	10.3
区分(平成27年モデル人口)		第1位	第2位	第3位	
令和2年	男性	岩手県	死因 肺	大腸	胃
		年齢調整死亡率	93.5	66.2	55.2
	宮古圏域	死因 肺	大腸	胃	
		年齢調整死亡率	79.7	73.4	35.9
女性	岩手県	死因 大腸	肺	乳	
		年齢調整死亡率	37.8	26.0	23.1
	宮古圏域	死因 大腸	肺	乳	
		年齢調整死亡率	49.6	38.9	24.1

6 心疾患の岩手県・宮古圏域の男女別年齢調整死亡率の推移

「心疾患」について、岩手県全体・宮古圏域の男女別年齢調整死亡率の推移を(図29)(図30)に示します。

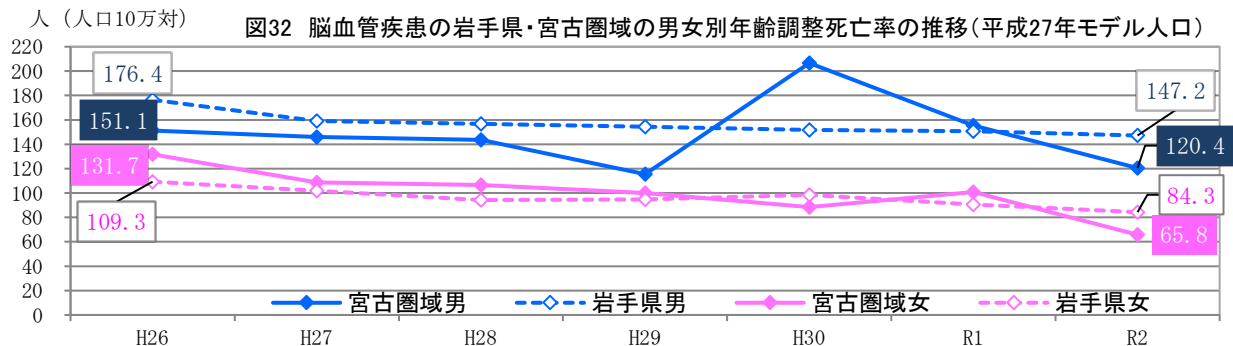
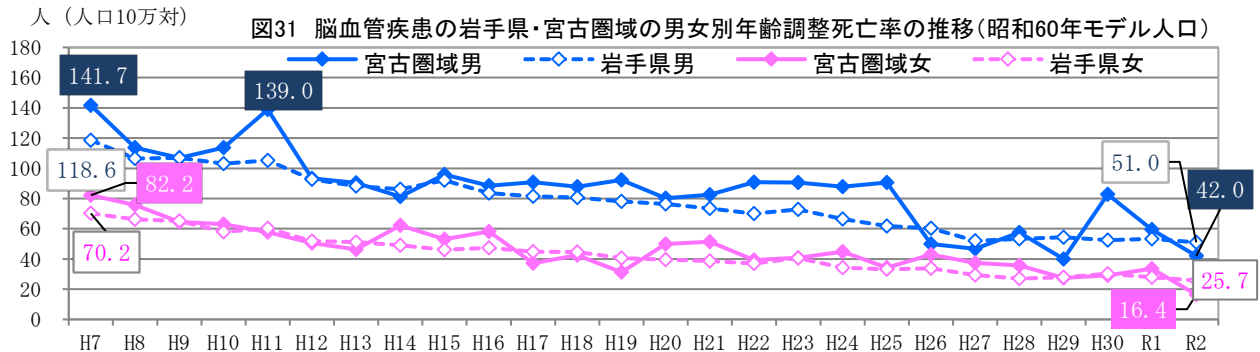
(図29)を見ると、宮古圏域では、男女とも平成8年から岩手県全体より高く推移しています。近年の状況を見ると、男性は平成20年から宮古圏域と岩手県全体の差が広い傾向にあります。令和2年は92.4と岩手県全体より高く推移しています。女性も平成8年から岩手県全体より高く推移しています。平成18年以降は、40~60の間で推移しています。令和2年は40.1と岩手県全体より高く推移しています。

(図30)を見ると、宮古圏域は男女ともに全ての年次で岩手県全体より高く推移しています。



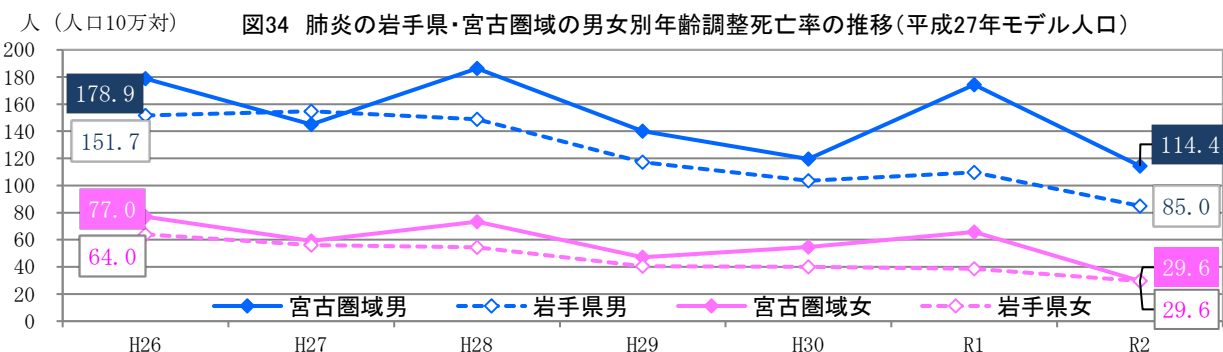
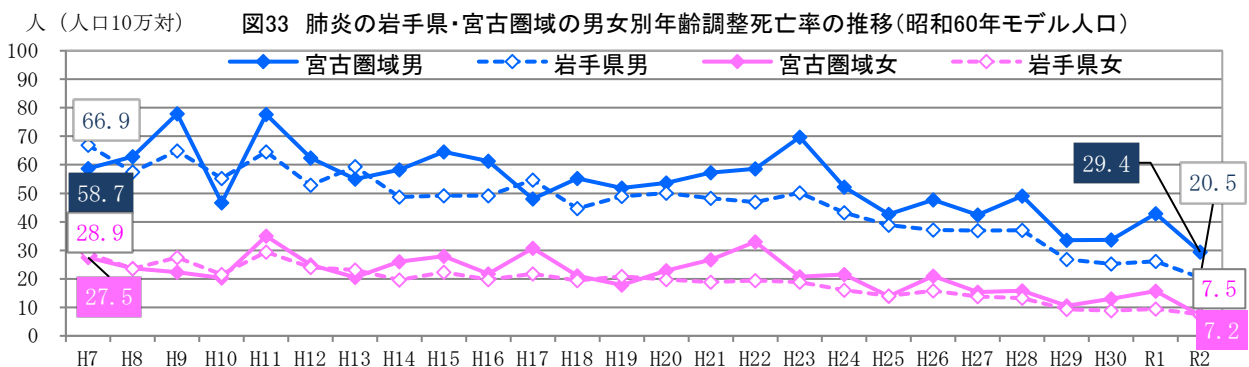
7 脳血管疾患の岩手県・宮古圏域の男女別年齢調整死亡率の推移

「脳血管疾患」について、岩手県全体・宮古圏域の男女別年齢調整死亡率の推移を(図31)(図32)に示します。
 (図31)を見ると、宮古圏域では、男性は平成7年から見ると、平成7年、11年に山を形成し、平成12年から平成25年は80～100で推移、平成26年から大きく低下、平成30年は上昇しています。令和2年は42.0と岩手県全体より低く推移しています。女性は、平成7年から平成13年にかけて低下傾向にありましたが、平成14年以降は30～60の間で上昇と低下を繰り返し、近年は緩やかに下降傾向となっています。令和2年は16.4と岩手県全体より低く推移しています。
 (図32)を見ると、宮古圏域の男性は年ごとに大きく変動があり、令和2年は岩手県全体より低く推移しています。女性は高く推移している年次が多くなっていますが、令和2年は低く推移しています。



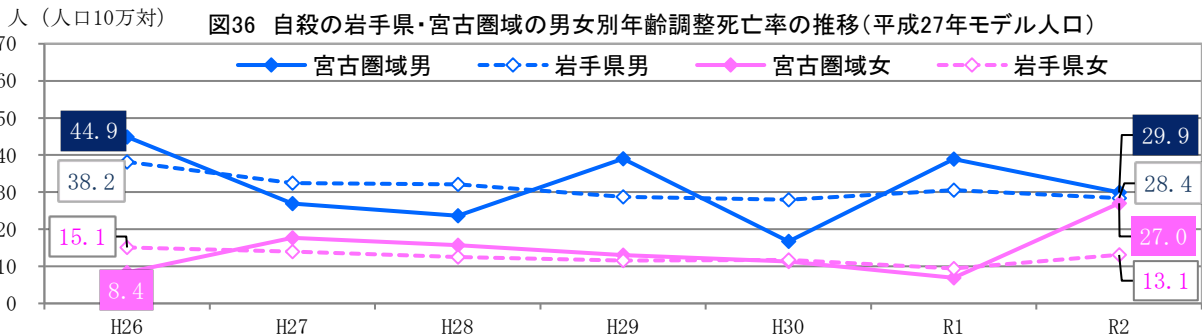
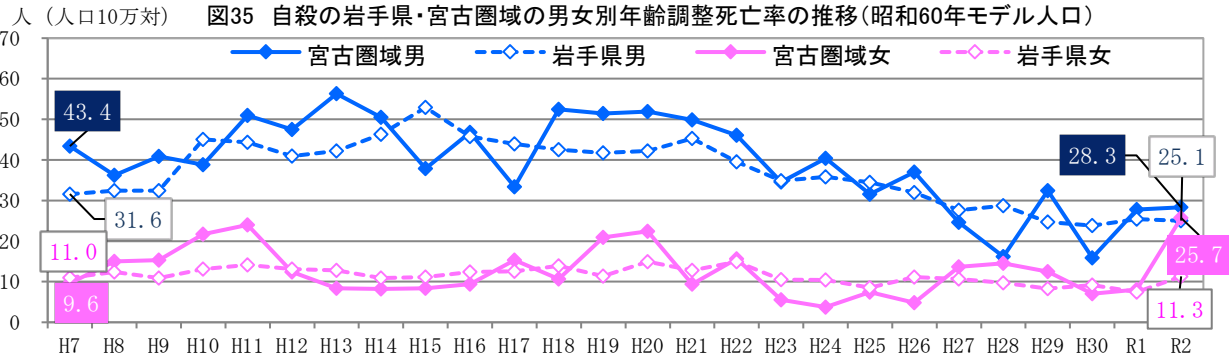
8 肺炎の岩手県・宮古圏域の男女別年齢調整死亡率の推移

「肺炎」について、岩手県全体・宮古圏域の男女別年齢調整死亡率の推移を(図33)(図34)に示します。
 (図33)を見ると、宮古圏域では、男性は平成9年、11年、23年に山を形成しており、平成18年以降岩手県全体より高く推移しています。令和2年は29.4と岩手県全体より高く推移しています。女性は、平成11年、17年、22年に山を形成しており、平成20年以降岩手県全体より高く推移している年次が多く見られます(平成25年、令和2年を除く)。令和2年は7.2と岩手県全体よりやや低く推移しています。
 (図34)を見ると、宮古圏域は男女ともにほとんどの年次で岩手県全体より高く推移しています。



9 自殺の岩手県・宮古圏域の男女別年齢調整死亡率の推移

「自殺」について、岩手県全体・宮古圏域の男女別年齢調整死亡率の推移を(図35)(図36)に示します。
 (図35)を見ると、男性は、年ごとに増減の変動はあるものの、長期的にみれば概ね低下傾向にあります。令和2年は28.3と岩手県全体より高く推移しています。女性は平成8年から11年にかけてと平成19年から20年にかけて山を形成しています。近年は概ね岩手県全体より高い値で推移し、令和2年は25.7と平成7年以降最も高い死亡率となっています。
 (図36)を見ると、宮古圏域の男性は年ごとに大きく変動があり、令和2年は岩手県全体より高く推移しています。女性は概ね岩手県全体と同様の傾向を示しているものの、令和2年は岩手県全体より高く推移しています。



10 老衰の岩手県・宮古圏域の男女別年齢調整死亡率の推移

「老衰」について、岩手県全体・宮古圏域の男女別の年齢調整死亡率の推移を(図37)(図38)に示します。
 (図37)を見ると、平成13年以前は、男女とも概ね県全体より高い値で推移していました。それ以降は、男性は大きく上下、女性は上下しつつ県全体と同様の傾向を示しています。令和2年は、男性が12.9、女性が16.5といずれも岩手県全体より低く推移しています。
 (図38)を見ると、宮古圏域は男女ともに年ごとに変動があり、令和2年は岩手県全体より低く推移しています。

